学校教育目標	夢実現へ挑戦する生徒の育成
--------	---------------

学校経営目標	たくましい実践力のあるいきいきと躍動する学校 1 確かな生徒理解のもと、生徒一人一人のよさや可能性を生かす学校 2 互いに磨き合い、高め合い、夢実現に挑戦する学校 3 生徒・保護者・地域から信頼され、応援される学校	めざす生徒像	夢と希望をもち、力強く歩み続ける子 1 自分の思い・考えをもつ生徒 2 自分も人も大切にすする生徒 3 人とつながる生徒 4 挑戦する生徒
--------	--	--------	---

めざす生徒像を実現するための今年度の重点目標	授 業 生 徒 指 導 地 域 と の 連 携 学 校 行 事 キ ャ リ ア 教 育 安 全 教 育 部 活 動 学 校 運 営 研 修	生徒が主体的に学びに向かい、対話的で深い学びを生み出す授業を推進する 一人一人の可能性を伸ばす温かく、丁寧な生徒指導体制を充実させる 連携・協力を一層充実させ、地域と共にある学校づくりを推進する ねらいに迫る魅力ある学校行事を推進する 夢や希望の実現に向けたキャリア教育を推進する 防災教育、交通安全教育等、命を守る教育を推進する 持続可能な部活動指導体制の構築に向けた取組を推進する 全職員が参画する学校運営体制を構築する とともに学び合い高め合う教職員集団を確立する
------------------------	---	---

ふるさとキャリア教育				
気付く力 自分のよさに気付く 地域のよさに気付く 疑問・価値に気付く	考える力 自分事として考える 情報を分析する 論理的に考える 課題を解決する	つながる力 人の考えとつながる 仲間とつながる 地域とつながる 実社会とつながる	伝える力 コミュニケーションをする 自分の考えを伝える 地域に発信する	将来をえがく力 学び続ける意欲 将来の自分の姿をえがく・進路選択 よりよい社会や地域をえがく

生徒評価					
評価項目	令和 5年度	令和 6年度	評価項目	令和 5年度	令和 6年度
基礎・基本的な学習内容が身に付いた。	3.2	3.3	進んで明るいあいさつをした。	3.5	3.4
集中して授業を受けることができた。	3.4	3.3	きまりを守り、正しい身なりで生活した。	3.7	3.7
挙手・発表や話し合い活動（意見交換）など、積極的に自己表現ができた。	2.8	2.9	TPO（時・場所・状況）をわきまえた発言や行動ができた。（例：敬語が使える、公共の場で騒がないなど）	3.5	3.5
自分の意見を主張しすぎず、仲間の意見も大切にすることができた。	3.5	3.5	自転車のマナーや交通ルールを守って、地域の方々や一般車両の迷惑にならないように、安全に登下校ができた。	3.7	3.6
発表するとき、聞き取りやすい声で語尾まではっきりと発言することができた。	3.1	3.1	健康的な生活を送ること（生活のリズムの安定、十分な睡眠時間、病気の予防行動など）を意識できた。	3.3	3.3
教科の授業や学活、道徳、総合的な学習の時間において、タブレットを十分活用できた。	3.5	3.6	自分だけでなく、仲間のことも大切にした学校生活（発言・行動）を送ることができた。	3.6	3.5
宿題以外の家庭学習にも意欲的に取り組んだ。	2.9	2.9	SNS の利用を含み、情報モラルを守った適切な使い方ができている。	3.7	3.8
授業の内容は分かりやすかった。	3.3	3.3	5つの力（気付く力・伝える力・考える力・つながる力・将来をえがく）を意識して生活することは大切なことだと感じている。	3.4	3.4
「知りたい」「やってみたい」「できるようになりたい」と思う授業が多かった。	3.2	3.1	5つの力（気付く力・伝える力・考える力・つながる力・将来をえがく）を意識して日々の学校生活することができた。	3.1	3.1
学校行事（体育大会、合唱コンクール、修学旅行、野外活動、地域探訪等）に積極的に取り組めた。	3.7	3.7	学級や生徒会、部活動等での役割に対し、集団のために役に立ちたいと思って取り組むことができた。	3.4	3.4
部活動、校外クラブ等では、技術や体力の向上に向け、ねばり強く取り組むことができた。	3.6	3.6	学級や生徒会、部活動等での役割に対し、やって良かったと感じている。	3.5	3.5
将来の夢や身近な目標をもって、日々の生活を送ることができた。	3.2	3.1	各項目の点数は、下記のように各項目を4件法にて回答し、点数化し平均で示したものである：4 だいたいできている：3 あまりできていない：2 できていない：1		

保護者評価					
評価項目	令和5年度	令和6年度	評価項目	令和5年度	令和6年度
学校は、子供にとって「わかる授業」を行っている。	2.9	2.9	お子様は、家庭学習の習慣が身についている。	2.6	2.5
学校は、「あいさつが響く」「思いやりがあふれる」「全力を尽くす」など、一人一人の可能性を伸ばす学校づくりを推進している。	3.2	3.1	学校の様子を含め、親子の会話を欠かさないようにしている。	3.3	3.2
学校は、いじめや差別がない、互いを認め合うことができる集団の育成を推進している。	3.1	3.1	将来の夢や身近な目標について、親子で話をしている。	2.9	2.9
学校は、「細江中学校いじめ基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めている。	—	3.1	お子様は、朝・晩のあいさつや登校・帰宅のあいさつなど、家に人や近所の人にあいさつをしている。	3.1	3.1
学校は、地域や家庭と連携し、地域とともにある学校づくり（社会に開かれた学校）を推進している。	3.1	3.2	お子様は、毎日朝食をきちんと摂っている。	3.7	3.6
学校は、魅力ある学校行事を推進している。	3.2	3.2	お子様は、生活のリズムを崩すことなく、毎日おおむね同じ時間に起床・朝食・登校・帰宅・夕食・就寝ができています。	3.1	3.0
学校は、子供の安全や健康のための取り組みを十分に行っている。（適切な学級閉鎖や防災訓練、薬学講座、交通安全教室、いい声かけデーなど）	3.3	3.3	SNSを含む、インターネットの使い方や利用時間等に関して、お子様と話をしている。	2.8	2.9
お子様は、基礎・基本的な学習内容が身についている。	2.7	2.6	登下校時の交通ルールの順守等、安全（防犯）に関する話をお子様としている。	3.1	3.2
学校は、便りやホームページ等で、学校の様子をよく知らせている。	3.3	3.4	各項目の点数は、下記のように各項目を4件法にて回答し、点数化し平均で示したものできている：4 だいたいできている：3 あまりできていない：2 できていない：1		

学校運営協議会委員					
評価項目	令和5年度	令和6年度	評価項目	令和5年度	令和6年度
学校は、子供にとって「わかる授業」を行っている。	3.6	3.0	学校は、魅力ある学校行事を推進している。	3.9	3.5
学校は、「あいさつが響く」「思いやりがあふれる」「全力を尽くす」など、一人一人の可能性を伸ばす学校づくりを推進している。	4.0	3.8	学校は、夢や希望の実現に向けた「ふるさとキャリア教育」の充実を図っている。	4.0	3.8
学校は、地域と連携し、地域とともにある学校づくり（社会に開かれた学校）を推進している。	4.0	4.0	学校は、子供の安全や健康のための取り組みを十分に行っている。（適切な学級閉鎖や防災訓練、薬学講座、交通安全教室、いい声かけデーなど）	4.0	3.8
学校は、いじめや差別がない、互いを認め合うことができる集団の育成を推進している。	3.6	3.8	学校は、便りやホームページ等で、学校の様子をよく知らせている。	4.0	4.0
学校は、「細江中学校いじめ基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めている。	—	3.8	各項目の点数は、下記のように各項目を4件法にて回答し、点数化し平均で示したものできている：4 だいたいできている：3 あまりできていない：2 できていない：1		

教職員評価	
先生と生徒と一緒に学習や学校生活を送っている姿が随所で見られます。授業のグループ活動では積極的に話し合う姿が見られました。タブレット端末や思考ツールを活用して、自分や他者との対話の中で学びを深めようとするシーンがたくさんありました。	体育大会、合唱コンクールや生徒会活動では、生徒が前面に出て取り組んでいる様子が見られました。行事に対する熱意がすごく高いと思いました。また、生徒会の活動も生徒たちが主体的に考えていると感じます。

自己評価の考察
生徒が主体的に学校行事や生徒会活動等に取り組み、集団のために役立ったことを実感し、やってよかったという成就感や達成感を味わうことができた。基礎的・基本的な学習内容が身に付くようするために、個別最適な学びや協働的な学びを通して、今まで以上にわかる授業を実践していく必要がある。日々の関わりや二者面談等を通し、生徒との関係性を深め生徒に寄り添った指導をすることにより、いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に努めた。ふるさとキャリア教育において、フィールドワークや地域の方との相談会等を通して地域の未来を考え、地域と連携した学校づくりを推進した。

学校関係者評価の結果（令和7年2月21日 第3回学校運営協議会）
中学生は、地域においてもあいさつをしっかりと行っているため、あいさつ運動を推進することは重要である。生徒に寄り添った指導ができるよう教職員が傾聴に関する研修を深めたり、ハートフルタイム（教育相談）を行ったりしているが、生徒が悩み抱えている場合に学校側で窓口となるのは、学級担任やカウンセラー以外に窓口があるのか気になる。

次年度に向けての改善方策
タブレット等を活用した学習による協働的な学習が重要であり、今後も推進していくこと必要である。一方、対面による活動を通して、コミュニケーション力や多様性等を養うことができるとともに、他者とのかわりによりレジリエンス（困難をしなやかに乗り越え回復する力）を育むことが期待できる。教科の学習や特別活動、ホソトレ等での校内外との人とのかわりを通して、生徒の成長を促していくようにする。